

令和5年度 施策評価シート

施策の大綱	4. 子育てと子どもの成長を支える環境の充実	評価担当者
基本施策	(1) 子どもたちの豊かな学びと成長を支える環境の充実	教育部長 亀山 隆
目指す姿	子どもたちが、豊かな学びのもと、未来を創るための力を身に付けています。	
関連する分野別計画	亀山市学校教育ビジョン	

■SDGs

基本施策に関連するSDGsのゴール	  
SDGs推進の考察	個の学び支援事業や学習支援事業は「誰も取り残さない学びの保証」に直結する取り組みであり、均質な学びの提供が公正な社会構築の起点になるものである。また、家庭・地域と連携した地域における子どもの居場所づくりや学校運営協議会の展開は「地域学校協働活動」につながるものであり、地域全体が主体者となる取り組みを目指しているものである。

■関連する主な事業

(単位:千円)

施策の方向	事業名	上段:予算額	実績・成果等
		下段:決算額	
①	放課後子ども教室推進事業	13,319	全小中学校で放課後子ども教室を実施することができた。地域で子どもの体験学習や地域の大人の交流活動を通じて、地域の中で子どもが育まれる居場所をつくることができた。
		11,896	
②	学校施設長寿命化計画策定事業	4,990	各学校等施設の劣化状況等について概ね把握することができ、今後の施設の適正管理と計画的な修繕や改修等を実施する目安となる計画を策定することができた。
		4,989	
②	中学校デリバリー給食実施事業	47,400	年間181回の実施により、必要な回数の給食を実施することができた。生徒対象のアンケートを実施し、委託業者との打合せと新メニューの取り入れにより、献立内容の改善を図った。
		47,254	
②	中学校全員喫食制給食実施事業	0	昨年度の検討内容を踏まえて再調査・再検討を行い「中学校全員喫食制給食実施に係る基本的な計画」を策定し、当該事業の方向性を示すことができた。
		0	
③	学力向上推進事業	1,800	教職員の授業力向上を図る研修会を行い、プリント等で児童生徒への学習理解を深めた。運動部活動支援員の登録により、教職員の研究等ができた。
		1,549	
③	学校図書館支援事業	14,629	図書館活用アドバイザーの配置により、児童生徒の読書習慣の確立や読書の質の向上につながる取り組みができた。園や小中学校で、親子読書リレーや読書チャレンジの取り組みも実施した。
		14,182	
③	GIGAスクール構想推進事業	61,079	学校の情報教育環境を整備できた。家庭学習でのタブレット端末の活用が向上した。情報モラルに関する授業の指導・助言を行った。児童生徒の情報活用能力が向上した。
		60,156	
③	英語教育推進事業	29,575	ALTの配置により、児童生徒にネイティブな英語に触れる機会を設定することができた。英語キャンプを実施した。英語外部試験等を実施し結果を分析し、授業改善を図った。
		28,859	
⑤	個の学び支援事業(小学校)	82,550	小学校において、介助員、看護師及び生活支援員を継続配置し、児童の学習面、生活面、活動面において必要な支援を行うことができた。
		81,995	
⑤	個の学び支援事業(中学校)	17,600	中学校において、介助員及び学習生活相談員を適切に配置し、特別な支援が必要な生徒に丁寧に対応することができた。
		16,976	
⑤	生活困窮者自立支援事業(学習支援事業)	4,144	定期的な学習教室の開催や不定期のテスト対策教室の開催等により、児童生徒の学習環境が整い学習習慣の確立と学習内容の定着につながった。
		3,321	
⑤	少人数教育推進事業	20,210	少人数教育推進教員の配置により、習熟度別授業やチームティーチング、個別支援等、児童生徒の実態に応じた指導の充実を図ることができた。
		19,502	
⑤	校務支援システム事業	3,806	各小中学校において、校務支援システムを活用して業務を行うことができた。システム活用に係る研修会を7回実施し効率的に業務が進められるようにした。
		3,806	
	※標準事業は別紙参照		

太字:主要事業

■成果指標

指標		単位	現状値		実績値				目標値
					R4	R5	R6	R7	
1	コミュニティ・スクールだより等を作成し、地域への情報発信を年間3回以上行っている学校の数	校	8	R2	11	13			14
2	学校評価アンケートにおける授業理解度(小学校)	%	90.0	R3	90.0	90.2			92.0
3	学校評価アンケートにおける授業理解度(中学校)	%	85.8	R3	87.2	88.3			89.0
4	「かめやまお茶の間10選(実践)」アンケートにおける取り組みだと回答した保護者割合	%	52.0	R2	66.0	64.7			70.0
5	学校評価アンケートにおける学校満足度(小学校)	%	93.4	R3	91.1	92.4			95.0
6	学校評価アンケートにおける学校満足度(中学校)	%	91.2	R3	94.1	93.1			95.0
7	「亀山っ子」市民宣言についてのアンケートにおける目指す子ども像について実感があると回答した割合	%	24.4	R2	28.9	31.1			30.0
8									

■市民アンケート調査

項目		現状値[R2]	1次[R5]	2次[R6]	市民アンケートの考察
1	小中学校の施設や設備が整っている	重要度 1.40	1.46		各項目の重要度が上がっている一方で満足度は若干下降している。個々の理由は想定できるが保護者層を中心として多様な見方がある中で要求レベルが上がったことから現状に対する認識変化と捉えることができる。
		満足度 0.43	0.32		
2	学校教育の内容や取組が充実している	重要度 1.42	1.51		
		満足度 0.26	0.24		
3	青少年を見守り応援する活動が行われている	重要度 1.34	1.38		
		満足度 0.52	0.43		
4		重要度			
		満足度			

■施策推進 [施策の方向]

施策の方向	施策推進に関する考察
① 学びを支える温かさあふれる学校づくり	学校運営協議会を核として、地域と協働し学校づくりを進めた。今後も地域や学校の特性をいかし、安心して学べる環境を整えていく。
② 学びの環境の充実	学校施設等の実態調査の結果を基に学校施設等長寿命化計画の策定を行うとともに、中学校全員喫食制給食実施に係る基本的な計画の策定を行った。
③ 希望をもって新しい時代に活躍できる子どもの育成	児童生徒一人ひとりが学ぶ楽しさや分かる喜びを実感できる授業改善を図った。今後も子どもたちの社会的自立を目指した取り組みを推進していく。
④ 家庭・地域の教育力の向上	「かめやまお茶の間10選(実践)」の取り組みを行い、家庭生活を通じて基本的な生活習慣を身に付けられるよう意識啓発を図った。今後も継続して意識啓発を図る。
⑤ 一人ひとりの学びを支えるきめ細かな教育の推進	子どもの特性や事情に配慮した学びの機会の確保に努めた。今後も一人ひとりの悩みに配慮したきめ細かな指導を行っていく。
⑥ 青少年の健全育成と青少年活動の促進	地域・福祉・教育の連携による青少年の自立支援や見守り体制の強化に取り組んだ。今後も関係機関等との連携を強化し、青少年の自立支援や見守り体制の強化を図る。
⑦	

総合評価

学びを支える温かさあふれる学校づくりでは、学校運営協議会が実効的に地域と共にある学校づくりに関わることで地域全体で子どもを育む亀山市の特性が生かされたと考える。学びの環境の充実では、学校施設の長寿命化計画を策定し、中・長期的な展望での学校施設改修に向けた優先度の把握が可能となった。中学校全員喫食制給食実施については基本的な計画を策定し、外部調理委託食缶搬入方式により実現を目指す方向が決定できたことは大きな画期となった。希望をもって新しい時代に活躍できる子どもの育成では、一人一台端末を学びの場における活用の実践を通じて各校が工夫して個別最適な学びの展開を進めたことが、微増ながら授業理解度が向上したと考えられる。家庭・地域の教育力の向上では、「かめやまお茶の間10選(実践)」の定着が地域全体で子どもの育みを取り巻く視点につながりつつあると考えられる。一人ひとりの学びを支えるきめ細かな教育の推進では、多様化する教育課題に対して部活動の地域移行も含め教職員の負担軽減が継続的な課題となっているが、個の学び支援事業やいじめを許さない学校風土の醸成とその早期の対応の強化、外国籍児童生徒への取組など誰ひとり取り残さない学びの保証が進められている。一方で、依然として不登校児童生徒数が増加しているが、図書館でのサークルルームの開始や各校でのふれあい教室の設置推進による居場所づくりが進められた。青少年の健全育成と青少年活動の促進は、令和6年度こども未来部の創設に向けて青少年総合支援センターのあり方を検証し福祉と連携した実効的な青少年支援体制の構築を行った。総体としていくつかの大きな教育課題の取組の方向性は示したが成果については途上にある。

B

まずまず進んだ

今後の展開方針

教育環境の整備、教職員の働き方改革、多様な居場所づくり、新しい枠組みでの青少年支援の体制づくりなど、様々な教育課題に対しての方向性を示した。これまでの取り組みを踏まえてこれらの教育課題を実効的に展開するために改めて教育施策全般の優先度を抽出し、これに即して注力を行う。この過程においては、教育に対しての市民理解を深め、児童・生徒・保護者のニーズを的確に把握する手法を確立するとともに、学校の統廃合を行わない方向性の下で学校をまたいだ授業や交流活動などの実証的試行を重ねていく。同時に一つひとつの教育課題に対して地域や関係機関、学校間の連携体制を構築し子ども未来部と一体的な施策展開を図っていく。この中で、地域の教育力の再構築を図り児童生徒の生活習慣などの文化的貧困に起因する教育格差解消など中長期的な教育展望を見据えていく。

■関連する主な事業

(単位:千円)

施策 の方向	事業名	上段:予算額	実績・成果等
		下段:決算額	
①	特色ある学校づくり事業(小学校費)	3,903 3,793	学校運営協議会を中心に、地域や学校ならではの創意工夫をいかした特色ある学校づくりを推進した。また、ゲストティーチャーを招いて体験学習活動や学力向上など多岐にわたる内容の取り組みを進めた。
①	特色ある学校づくり事業(中学校費)	760 734	学校運営協議会を中心に地域や学校ならではの創意工夫をいかした特色ある学校づくりを推進した。ゲストティーチャーを招いて体験学習活動や学力向上など多岐にわたる内容の取り組みを進めた。
①	コミュニティスクール推進事業	1,060 818	定期的に学校運営協議会を開催し、たよりを発行することで、活動内容等を周知することができた。
②	施設整備費(小学校費)	37,033 37,001	亀山東小学校体育館屋根改修や関小学校防犯カメラ改修等、予定していた工事を執行し、学校生活環境の向上を図った。
②	施設整備費(中学校費)	615 615	中部中学校体育館電源増設工事及び関中学校留守番電話取付工事を執行し、学校生活環境の向上を図った。
②	施設整備費(幼稚園費)	8,788 8,788	土壌整備工事(井田川)、ログハウス設置工事(亀山・井田川・みずほ台)等、公立幼稚園の施設改修等を実施することで、保育環境の向上を図ることができた。
②	地場農畜産物利用推進事業	290 259	市内・県内産の食材を多用した「かめやまっ子給食」を22回実施した。また、給食調理員対象に衛生管理と調理実習の研修会を2回実施し、研修後は作業工程や調理器具の点検を行い、各学校現場での改善につなげることができた。
③	体育・文化活動支援事業(小学校費)	1,289 1,208	亀山市文化会館と連携し専門家を招聘し合唱指導の機会や様々な文化公演を行った。また、幼児や児童の体力向上を目指し、各園・各校に専門性のある外部講師を派遣した。
③	体育・文化活動支援事業(中学校費)	291 262	亀山市文化会館と連携し専門家を招聘し合唱指導の機会や様々な文化公演を行った。また、幼児や児童の体力向上を目指し、各園・各校に専門性のある外部講師を派遣した。
③	中学校体験活動支援事業	980 899	全ての中学校で就労体験を実施した。亀山中学校と岡山県高梁中学校との交流を行った。
③	幼児教育推進事業	2,080 1,776	保幼認小間の切れ目のない教育を目指し、教職員が連携し、情報共有することで、きめ細やかな支援体制を整えた。各園の若年職員等の指導のための園訪問や研修会を行った。
③	教職員研修事業	1,430 1,095	基本研修を12回、授業力向上研修を16回、教育課題別研修を14回開催した。各校への外部講師や市教推各研究部の講師を計画的に派遣し、教職員の主体的な研修を支援した。
③	道徳・人権教育推進事業	490 347	差別事象の把握や人権・道徳に関わる各校への助言等、従来の取組に加え、亀山市人権教育推進協議会の組織体制の確立、県の人権教育アライメント事業を受け、研究指定した中学校区と県立学校が協働して人権教育の実践研究を進めた。
④	子育て学習展開事業	917 652	保育園等において、保護者対象の家庭教育出前講座を行った。また、小中学校では、家庭・地域の教育力事業として、家庭での学習に関する指導・啓発に関する講演を実施した。
⑤	適応指導教室事業	11,030 10,967	適応指導教室で児童生徒と保護者への相談を行った。教職員のスキル向上のため、研修会を開催した。子どもの居場所づくりのために「かめっ子サポート」に委託し体制強化を図った。
⑤	生徒指導充実事業	2,050 1,910	学校からの要請により、指導主事やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーを学校に派遣し、児童生徒の心のケアや関係機関との連携を進めた。
⑤	障がい児支援事業	14,462 10,362	公立幼稚園に在籍する支援が必要な園児に対し、介助員等の職員を加配することで、教育環境の充実を図ることができた。
⑤	特別支援教育推進事業	336 331	亀山市教育支援委員会を年間4回開催し、特別支援学校や特別支援学級、通級指導教室など、個に応じた学びの場への就学について、就学先の決定につなげることができた。
⑤	外国人児童生徒教育支援事業	2,990 2,836	外国人児童生徒のいる学校へ外国人児童生徒支援員の配置とボランティアの派遣を行った。就学前の幼児や保護者に向けてプレスクールを開催したり、中学校卒業後の進路ガイダンスを開催したりした。
⑥	青少年健全育成費	4,710 3,951	令和5年8月23日～25日に青少年体験活動サマーキャンプを実施した他、各社会教育団体の事業のサポート及び補助金を交付手続きを行った。
⑥	青少年総合支援センター費	13,720 13,164	補導員により児童・生徒の登下校時等のパトロールを実施し、不審者情報などについて、迅速に特別パトロール対応とした。また、各地域の非行防止部会等と合同パトロールを実施した。
⑥	二十歳の集い開催費	600 543	令和6年1月7日に「二十歳の集い」を開催し、青少年の社会へ踏み出す第一歩のきっかけづくりに寄与した。
⑥	青少年自立支援事業	4,566 4,500	支援員による地域・学校など関係機関と連携した活動により、青少年の相談や自立に向けた支援を行った。